

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【その他】

掲載数

57

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小5	その他	防犯教育	<p>不審者侵入時の身の守り方などを知り、学校で緊急事態が緊急事態が起こった場合は、どのように行動することが相応しいのかを確認した。実際に起こった体で行動することで、有事に落ち着いて行動できるようにした。</p> <p>同時に、今年1日に発生した令和6年能登半島地震にも触れた。生きていく中で、予期せず災害や事故に巻き込まれてしまう事を踏まえ、今生きていることがどれだけの奇跡が重なっているのかを話し合った。ゲームのようにリセットしたり、何度も生き返ったりすることはできない等の反応があった。「いのちが続いていることは、当たり前じゃないから感謝しないとイケない。」と、話していた。</p>	
2 川崎市	小複合	その他	「いのち」と「こころ」	<p>第1日目に「いのち」についての授業、第2日に「こころ」についての授業を行った。「いのちのおはなし」「こころってなんだろう」の本を読み聞かせながら、子どもたちに問いかけ、みんなで考えた。</p> <p>第2日目の授業の後半には、果物についての「スリーヒントクイズ」を行い、みんなで心を合わせるゲームを行った。</p> <p>「いのち」の授業では、自分の命も友達の命も大事にする、「こころ」の授業では、誰かに関わるときにいろいろな気持ちが生まれることを知り、しあわせな気持ちをつらい気持ちの両方を知ることがとても大事なことだと気づいた。「いい人になるには、こころが大事」という意見が出た。</p>	支援級での授業 「いのちのおはなし」「こころってなんだろう」
3 川崎市	小3	その他	人権	<p>「さっちゃんともほうのて」を読み聞かせ、人権について考える授業を行った。子どもから以下の意見が出る等、人権とは何かを知り、今後どのようなことを大切にして考えていくかを学ぶ機会となった。</p> <p>*さっちゃんは、指がないだけで、みんなと何も変わらない。自分の思い通りになりたいこと、やりたいことをしていいと思う。指や足がない人は、それ以外、他の人と変わらないことを知ることができた。</p> <p>*さっちゃんのように何かなくても何かをやってはいけないわけじゃないし、努力すればできるようになるかもしれない。努力してもできないことがあったとしたら、少しでもサポートしてささえあげればいいと思うからせめるような行動は絶対にやってはいけないと思いました。</p> <p>*さっちゃんは指がないからお母さんになれないと友達と言うけれど、それはさっちゃんが決めること。友達の考えより自分の考えを伝えることが大切なことが分かりました。誰にでも物事を決める権利がある。</p>	「さっちゃんともほうのて」

4	川崎市	小1	その他	こどもの権利	川崎市から配付されている資料「かがやき」を使用し、こどもの権利はどんなものがあるのか、権利が侵されているということはどういうことなのか考えた。1年生にとって権利という言葉は初めて知る場合が多く資料表紙にある様々な表情の子どもたちから「どんな気持ちがあるか」を考え、悲しい気持ちになってしまう場合を考えた。子どもたちは真剣に考え、「友だちに嫌な言葉を言われたとき」「家族とけんかしてしまったとき」などを考えていた。お互いに気持ちよく生活するためには権利を守っていくことが大切だということを確認した。	人権資料「かがやき」
5	川崎市	小6	その他	命の旅	普段から何気なく食べている肉や魚にはたくさんの命のやりとりがあることから、命を頂くとはどういうことなのかを考えさせた。 授業では、食物連鎖を通して命がつながっていることから命の重みを感じる児童が多くいた。また、多くの廃棄を出していることにも触れ、自分たちはこれからどのように命と向き合っていかなければならないかを考えさせた。	光村図書「道徳6」
6	川崎市	小1	その他	食に関する指導 「いただきます とごちそうさ ま」	勤労感謝の日の行事食において、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を考えられるように自作の紙芝居を用いて説明した。児童は、動物たちのいのちをいただいていることに対して「いただきます」、給食や食事を作っている調理員やおうちの人に対して「ごちそうさま」を言っていることを初めて知り、これからは感謝の気持ちをもって挨拶をすると話していた。動植物のいのちをいただいている話をしたところ、苦手なものが多い児童も、がんばって食材を食べてみようとする姿が見られた。	実施者：栄養職員 時間：給食時間 (小2でも実施) 教材：紙芝居
7	川崎市	小3	その他	共生共育「SOSの 出し方・受け止 め方教室」	困った時には周りの人に相談することの大切さを知り、自分の命を守るために人権週間に授業を行った。まずは、自分自身を知るためにワークシートに好きなことや良いところ、楽しいことなどを書き込んだ。これが自分の気持ちを支えるための大切なレジリエンスになることを実感することができた。また、動画を見ることで、困ったことや嫌だと思ふことがあった時には、周りの大人や友達にSOSを出すことが大切だと知り、SOSを出すことへの肯定感が高まった。	川崎市教育委員会の資料、 動画、ワークシート等を使用することで授業の内容や展開を計画することができた。
8	川崎市	小5	その他	生命の尊さ	道徳の教材「命の詩」で学習。原作の『電池が切れるまで』を紹介しながら、命の詩の作者、みやこしゆきなさんのエピソードや詩を読むことを通して命を大切にすることはどうか、児童一人一人が考えた。友達と意見交流をしながら、命を大切にすることは、「精一杯に自分の命を全うする」ということに気づいた。精一杯に生きるために、自分はなにを励んでいこうか、なにを気をつけていこうかということを考えた。限りある命をただ、消化していくのではなく、懸命に生きていきたいという思いを持つ児童もいた。	光村図書 道徳5 きみがいちばんひかるとき 教材名「命の詩」 角川つばさ文庫 宮本雅史作、みやこしゆき な絵 『電池が切れるまで』

9	川崎市	小1	その他	生命の尊さ	<p>道徳の教材「みんないきてる」で学習。命の大切さは言葉を通して理解するだけでなく、日々の生活経験の中からも感じ取ることができるように考えた。命があるからこそできることがあり、あたりまえの生活の中で見過ごしがちな「生きているあかし」を考えた。友だちと楽しく遊ぶことも、ぐっすり眠ることも、怪我をして痛いと感じることも「生きている」から感じることができる気が付き、生きる喜びや生命の大切さを子どもたち一人ひとりが実感した。</p>	光村図書 道徳1 きみがいちばんひかるとき 教材名「みんな いきてる」
10	相模原市	小複合	その他	農園・花活動	<p>年間を通して、自分たちで学級農園の野菜（ピーマン、ナス、大根、ほうれんそう、とうもろこし、ししとう、トマト、かぶ）の栽培を行った。その後、自分たちの手で収穫し、カレーにしたりお味噌汁に調理したりしたことで、今、自分たちが食べている命がどこからきたのかなどの循環を実感することができた。また、それぞれの野菜に愛着をもち、枯れないように工夫する姿も見られた。</p>	栄養教諭・家庭科専科
11	相模原市	小6	その他	自分を見つめる	<p>小学校卒業を控え、「自分を見つめる」をテーマに講師から講演をいただいた。（道徳）その話を受けて、図画工作科で自分を表現する自画像（顔の部分が自分の好きなものでできている。例えば眼の部分がピアノ、など。）を描いた。その作品を、これまで一緒に過ごしてきた友人の性格や夢、好きなことなどを考えながら、鑑賞して意見交流をした。それぞれの児童が何かに夢中になる気持ちを尊重し、素直な気持ちを大切にすることを育むことができた。（図工）</p>	講師はゲストティーチャー
12	相模原市	小3	その他	「たいせつなあなたへ」	<p>「たいせつなあなたへ」の低中学年版を用い、自分だけの大切な体について考えた。児童からは「自分の体はどこも大切に、友だちの体も大切なんだと感じた」「自分の気持ちも相手の気持ちも大切だと思った」などの感想があり、自分の体の大切さを考えることで、他者も同じように大切だということを考える機会となった。また、クラスの中で自分や友だちを大切にするためのマナーについても気付くことができた。さらに、大切なところを見られたり触られたりした時にどうするかを考え、適切な対応を再確認することができた。</p>	文部科学省生命の安全教育 動画教材 「たいせつなあなたへ」
13	相模原市	小複合	その他	動物愛護	<p>犬とのふれあい方の授業を1年生対象に行った。盲導犬や警察犬などの使役犬についてや、犬との正しい触れ合い方について学んだ。使役犬の役割や、殺処分予定だった犬の保護についても話を聞いた。「人間と同じように動物にも命がある。」と、命の大切さについて学ぶことができた。実際に犬と触れ合うことで、より犬が好きになったり、苦手だった児童も興味をもてたりしていた。</p>	講師 スマイルアニマルセラピー クラブ(代表 座間さん)

14	相模原市	小6	その他	いじめ防止授業	<p>たくさんの重い荷物を持っていたAさん、Bさんが「荷物を持ってあげる。でも、ぼく急いでいるから先に教室に行くね。」と言って、Aさんの荷物を持って急いで教室に行ってしまった。それを見ていたCさんはBさんがAさんの荷物を奪って逃げたと勘違いして、Bさんの悪い行いを他の人に伝えてしまう。さらに家に帰ってからSNSで拡散。その結果、Bさんはみんなから仲間はずれになって、不登校になってしまう。この事例について、みんなで考えました。それぞれの気持ちを確認し、それぞれが何がいけなくて、どうすればよかったのか……。たくさんの意見が出て、大きな学びとなりました。</p>	
15	相模原市	小1	その他	「性教育」かぞくのなかのわたし	<p>教材の写真絵本を読み聞かせることで、赤ちゃんが誕生するまでの変化や、奇跡的な出来事であることを視覚的に知ることができた。また、自分の生まれてくる前、家族が楽しみにしていたことや、無事に生まれた時の喜びについて話し合い、気持ちを想像することができた。最後に、「生まれたばかりの赤ちゃん人形」を一人ひとり抱っこし、その重さを実感することによって、自分の存在の大切さを改めて感じることもできた。</p>	<p>(教材) 知らなかった！おなかのなかの赤ちゃん図鑑 (増崎英明・監修/ WILLこども知育 研究所・編著) 2022年9月30日 (株) 岩崎書店</p>
16	相模原市	小6	その他	生命 (いのち) の安全教育 「心と体の安全」	<p>昨今、子どもたちが性暴力の加害・被害に巻き込まれる事案が起きている。性暴力に対する誤った認識や行動を理解し、自分や相手、一人ひとりを尊重する大切さを指導した。プライベートゾーンについてはこれまでの性教育での学習と関連させて考える姿が見られた。「体/心の距離感」は日常生活や友達関係から共感している児童も多く、相手のことを考えた接し方の重要性について話し合った。SNSの使用では児童の利用状況に差が見られたものの、トラブルに巻き込まれないための使用について考えた。児童の振り返りでは、自他ともに命を守る大切さに気づいたり、今の自分にできることを考えたりする記述が見られた。</p>	<p>生命 (いのち) の安全教育 動画教材の視聴 全学年・学級で実施 (学級ごと)</p>
17	相模原市	小6	その他	食育	<p>命と食には深い関わりがあり、食べ物は生命を維持し、健康に影響を与える。食事の質やバランスは、個々の健康や生命力に大きな影響を与える要素である。そのため、食のプロである栄養士の講話から、食べ物は私たちの生命維持に欠かせない要素であり、適切な栄養を摂ることことは健康を保つために重要であるということに気づかせた。</p>	<p>栄養士</p>

18 相模原市	小複合	その他	自分のめがねを描こう！	<p>道徳・図工・国語の合科横断的学習を展開</p> <p>①大橋美沙さんの絵画「私と私」を鑑賞</p> <p>②「自分のめがね」を制作する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なこと・好きなことなどの自分の世界をめがねとして表現する ・自分の作品についてキャプチャーを作成する <p>③お互いの作品を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のめがね」についてスピーチする ・友だちの制作した作品について、感想を述べ合う <p>④ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を改めて見つめ直し、表現したことで、自己肯定感の高まりが感じられる振り返りが見られた。 ・友だちの作品も見合ったことで、友だちに対しても新たな気づきがあり、その思いをシェアしたことで、自己有用感の高まりも見られた。 ・自分の命、友だちの命も大事にしていこうと思うとてもよい時間となり、命の作文を書いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5・6年生合わせて学習を実施 ・大橋美沙さんの作品を使用
19 相模原市	小複合	その他	自分のめがねを描こう！	<p>5・6年同様、道徳・図工・国語の合科横断的学習を展開</p> <p>①大橋美沙さんの絵画「ギフト。」を鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師として大橋美沙さんをお呼びし、本人から「ギフト。」の絵の解説を聞いたことで、子どもたちにとって意義のある時間となった。 ・制作のヒントもいただけて、子どもたちの意欲は増した。 <p>②「自分のめがね」を制作する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なこと・好きなことなどの自分の世界をめがねとして表現する ・自分の作品についてキャプチャーを作成する <p>③お互いの作品を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のめがね」についてスピーチする ・友だちの制作した作品について、感想を述べ合う <p>④ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を改めて見つめ直し、表現したことで、自己肯定感の高まりが感じられる振り返りが見られた。 ・友だちの作品も見合ったことで、友だちに対しても新たな気づきがあり、その思いをシェアしたことで、自己有用感の高まりも見られた。 ・自分の命、友だちの命も大事にしていこうと思うとてもよい時間となった。 ・風っ子展に学校代表として出品した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生合わせて学習を実施 ・講師：大橋美沙さん

20	相模原市	小複合	その他	生き方講演会 ～チャレンジあ きらめない心～	車イスバスケットボールチームの方を招き、全校児童で人権・福祉教育の一環として、体験教室を実施。児童は、実際に車イスに乗ってゲームを行うことで、選手の方が簡単そうに行っている動きが大変なことを実感し、選手の方の軽やかな動きは、日頃の練習の成果であることがわかった。また、日常生活で困ることはそんなになんないという言葉聞き、驚く児童が多かった。できないことや難しいことを悔やむのではなく、努力してクリアにしたり、考え方を切り替え、他のできることを増やしているという話を聞き、児童には学びの多い活動となった。今回の活動は、「生きる」ことに日々真剣に向かい合っている方との活動であり、特に高学年の児童にとっては、「生きる」と言うことについて考えるよい機会となった。	下学年と上学年に分かれて 体育館で実施。
21	相模原市	小複合	その他	交通安全教室・ 防犯教室	交通安全教室では、歩行実技（1・2年生）や自転車実技（3～6年生）を通して、交通ルールや交通マナーについて学んだ。防犯教室では、「いかのおすし」の合言葉とともに、具体的な場面を例にしながら不審者から身を守るための方法を考えることができた。実践的な知識や日頃からの心構えの大切さを学ぶことで、かけがえのない命を自ら守ろうとする意欲や態度を育むことにつながった。	講師 相模原市安全協会
22	横須賀市	小複合	その他	元気な野菜を育 てよう	支援級では、毎年野菜を育てている。高学年から募集した実行委員は、育てる野菜についてアンケートをとったり植え方や育て方の指導をしたりすることで、リーダー性が育った。水やりや雑草抜きなどは当番制にし、みんなで協力して育てることができた。育った野菜は家庭に持ち帰ることで、収穫や家族に感謝された喜びやその美味しさを味わうことができた。毎年工夫しながら活動を継続することで、いのちを育むことの大切さやみんなで協力して成し遂げることの大切さを学ばせていきたい。	支援級全学年による 自立活動
23	横須賀市	小複合	その他	責任をもって植 物を育てる	前期には支援級の全員で水やり当番などを分担してミニトマトや枝豆、ナス、ピーマン、ひまわりを育てた。後期になり、今度は一人ひとりが責任をもって育てていくことになった。自分の育てたい野菜を決め、水やりなどのお世話をしていくうちに、愛着をもつようになった。収穫後はそれぞれの家庭に持ち帰った。芽出しから一人ひとりが行ったことで植物に対しても大切にしたいという気持ちが芽生えていた。	支援級1～6年
24	横須賀市	小2	その他	いのちの授業	【目標】・自分のいのちの尊さを知ることができる。 ・自分のいのちと同様、友だちや自分以外の人のいのちを大切に思うことができる。 【内容】・受精（精子と卵子が会う） ・妊娠のしくみ（子宮・臍帯・胎盤・羊水） ・妊娠中の胎児の様子（5週・9週・15週・20週…） ・出産の様子～新生児について（身長・体重） ・産後の様子（授乳・育児）	横須賀市助産師会 （講師・養護教諭）

25	横須賀市	小複合	その他	暗闇の世界で	自立の時間で、蛍光色の絵の具を使って描いた作品をブラックライトで光らせる「暗闇の世界で」の授業を行った。自分の気持ちをうまく表現することができない不器用な児童が多い中で、この授業では、みんな積極的に活動に取り組み、思い思いの作品を作っていた。自分の気持ちを絵を通して表現することで、満足そうにしている児童が多くいた。この授業を通して、自分の気持ちを何かしらの方法で表現することの良さを、子ども達は知ることができている様子だった。普段の生活の中でも、何か悩むことがあったときに、この経験を生かしてほしいと思う。	支援級1年～6年 蛍光色の絵の具 ブラックライト
26	湘南三浦	小4	その他	防災教育	災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて的確な判断のもとに自らの安全を確保するための行動ができるようにする	津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」 Youtubeより
27	湘南三浦	小複合	その他	食に関する指導 「かむことの大切さ」	6月4日～10日は「歯と口の健康週間」・給食では、「かみカミ週間」に合わせた食育の授業を行った。本校栄養教諭による授業で、心身の成長や健康保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につけることがねらいである。紙芝居やクイズ、実際にかむ動作をしてあごの動きや唾液の分泌を確かめなど体験しながら学ぶことができた。子どもたちも興味、関心を持って真剣に話を聞き、かむことの大切さを学ぶことができた。その後、給食時によくかんで食べる姿が見られた。	本校の栄養教諭が6月に3日間にわけて、2年生3クラスと特別支援学級に授業を行った。
28	湘南三浦	小6	その他	生命の重み 歴史	神奈川県原爆被災者の会逗子支部（つばきの会）の方から被爆者体験を聞く会を持つことで、戦争の悲惨さや、二度と繰り返してはいけないという気持ちを育てる。	
29	湘南三浦	小3	その他	一人ひとりが安心できる居心地の良い学級を目指して	ある子の「学校に行きたくない」という気持ちを聞いたことをきっかけに、再度みんなを確認したそれぞれの違い。得意・不得意、好き・嫌い、自信の有る・無い、そして容姿や体格。どんな違いも互いに受け入れ、どんな子も居心地よく過ごせることを目指し、「みんなの安心」をキーワードに繰り返し実践した。発言が正答でなかった際、「ハァ？」と聞こえてきたものが「惜しい」と変わった。体育の苦手な子でも楽しめるよう、ラケットベースのルールが工夫された。「ドンマイ」の声が増えた。また、国語では「対話」のポイントを学び、相手の考えを受け止めることの大切さに気付いたことで、教室での発言が増えた。安心して失敗できる空気感が、教室の中に少しずつ増えていった。	学級活動や国語、算数、体育をはじめ、日頃の学級経営すべてで実践した。
30	湘南三浦	小複合	その他	避難訓練 (地震→火災無予告)	今回の避難訓練は、休み時間に地震が発生した想定で行った。児童はそれぞれ、教室で過ごしたり校庭で過ごしたりしていた。校庭の児童は遊具をすぐにおいて校庭の真中へ、校舎内の児童は教員の引率のもと自分の防災頭きんがあればかぶって避難した。避難完了まではスムーズにだったが、防災頭きんがなかったら何を使って身を守るのか、校長から問いかけた。防災頭きんの代わりに何かで頭を覆っている児童はおらず、もし地震が発生した時は、本や身の回りにある固いものを使って、自分の身は自分で守る判断をすべきと指導をした。	

31	湘南三浦	小5	その他	ふれあい体験事業～いのちの話～	講師の助産師さんから実物大の胎児の人形を使っての妊娠・出産・子育ての話聞いたのち、妊娠疑似体験服の装着、赤ちゃん人形の抱っこ体験、子宮の中に入る体験、実際の妊婦さんへのインタビュー等を行う。町の事業だが、保健の授業とも絡め、様々な体験を通していのちについて考える機会としている。	・助産師 ・妊娠中期～後期の妊婦の方 ・町子ども育成課
32	県央	小複合	その他	人権週間～おもいやり～	人権週間に伴い、各学年の実態に合った人権教育や「思いやり」の道德の授業を行うようにしたり、給食の時間を利用して、「人権とは何か」や「パーソナルスペース」といった人権につながる絵本を読み聞かせたりした。「パーソナルスペース」の話の中では、「タッチのものさし」を見ながら、自分や相手を思いやり、大切にするための距離感について話をした。各学年ごとに「ふわふわ言葉の木」を作成し、より温かい言葉を意識して使えるように取り組んだ。	全学年での実施
33	県央	小複合	その他	人権週間の取り組み	12月4日から10日まで校内人権週間だったので、11月に各委員会に「何かできることはないか。」と呼びかけたところ、放送委員会が「いろいろな国のいろいろな言葉にふれよう」をテーマに、11月27日から12月22日までいろいろな国の言葉で朝の挨拶を放送することになった。英語・スペイン語など、本校児童に関係のある9ヶ国の挨拶を委員会児童がタブレット端末で調べ、毎朝、日本語で「おはようございます。」と言った後に調べた言葉の挨拶を放送した。初めての試みだったので、子どもたちは、興味をもって聞いていた。自分が関係する国の言葉を放送された児童も嬉しそうであった。世界には、いろいろな国の言葉や文化があるということを感じる機会になったのではないかと思う。	全校児童
34	県央	小複合	その他	人権週間「よりよい自分になろう」	人権週間（11月下旬）「ピンクの和キャンペーン」の取組。人権担当と健康委員会の児童が朝会で、自分たちは幸せになるチケット（権利）を持ち、一人ひとりが大切な存在であると同時に自分の周りの人々も大切な存在であることを伝えた。各クラスにて、児童が人権週間で大切にしたいことや頑張っていること、周りの人々に対して大切にしたいことをワークシート等書いた。児童はそれぞれ、夢に向かって頑張っていることや友だちへの想いを記入していた。週間中はピンクのラバーバンドを腕につけることで、人権への意識を高めた。	職員会議資料「ピンクの和キャンペーン」健康委員会制作「自分と周りの人を大切にしようキャンペーン」
35	県央	小複合	その他	地震避難訓練「自分の命は自分で守る」	安全部主催の学校行事なので、全校で取り組んだ。1学期には、地震、火災の避難訓練を行った。新しい年度になり改めて避難する経路、避難訓練の意味を確認した。近年の災害について指導し、学校で災害に遭遇した時の避難の仕方を確認して訓練に臨んだ。児童一人ひとりが真剣に参加することができ、早い時間での避難ができた。校庭避難の後、各教室で振り返りを行った。振り返りカードでは「自分の命は自分で守る」ことについての自分の考えと避難訓練についての振り返りを書き、それぞれが命について考えることができた。担任は振り返りカードを確認し、一人ひとりの命に対する思いを理解することができた。今後も「自分の命は自分で守る」ことを指導し続けていきたい。	安全部主催学校行事

36	県央	小複合	その他	交通安全教室	<p>地元企業の協力を得て、大型車を用いての交通安全教室を行った。死角体験では、児童一人ひとりがダンプカーの運転席・助手席に乗り、大型車には死角が存在し、運転手がどんなに気を付けても見えない場所があることを体験した。内輪差講習では、校庭をダンプカーが走行し後輪で段ボール箱を踏む様子を見学し、内輪差の存在やその危険性について学んだ。授業後に各学級で振り返りの時間を持ち、命を守るために、交通安全について自分がこれからどんなことに気を付けていくか、どんなことを実践していくかを考えた。</p>	<p>〈講師〉地元企業職員 〈ボランティア〉 学校運営協議会委員 PTA校外委員 登下校見守りボランティア 〈対象〉全学年 〈教材等〉 10tダンプカーが校庭に乗り入れ、体験・見学を行った。</p>
37	県央	小4	その他	いのちの授業	<p>赤ちゃんが生まれてくるまでの過程と、生まれるときのお話。 大和市立病院産婦人科の助産師の方に来ていただき、お話をしていただいた。母親のおなかの中での成長の様子（小さな受精卵が約3000gにまで成長する様子）、おなかの中にいるときからとても大切に思われてきたこと、生まれた時の家族の喜び、現在に至るまでの家族や周囲の愛情などについて学び、命の大切さと命の重さについて考えた。また、人形を使って、乳幼児の抱っこ体験をした。</p>	大和市立病院看護部助産師 こども部すくすく子育て課 保健師
38	県央	小複合	その他	いじめ防止・人権週間	<p>人権に関する本の読み聞かせやパワーポイントの発表を通して人権について全学年の児童が考えることができた。</p>	福祉委員会 5、6年
39	県央	小複合	その他	防災教室	<p>起震車体験・避難所資材取り扱い体験・避難所運営体験ゲームを行った。起震車体験では、東日本大震災での揺れを実際に体感した。避難所資材取り扱い体験や、避難所運営体験ゲームでは、簡易ベッドやパーテーションを実際に広げたり、避難所についての知識を深めたりした。災害が起きたときの状況を具体的にイメージすることで、防災についての意識を高めることができた。</p>	<p>学校行事 講師：愛川町危機管理室 小1～6</p>
40	県央	小複合	その他	性に関する指導	<p>1～6年まで、各学年の実態に合わせて性に関する指導を行った。4年生では思春期の体の発達と心の発達について、5年生では3億分の1の奇跡（いのちが生まれる確率）について、6年生では多様な性のありかたやLGBTQsについて学んだ。</p>	養護教諭・担任
41	県央	小2	その他	性的マイノリティの人権 「自分が好きなもの」	<p>性別の判断が曖昧なイラストを見て、男の人か、女の人かを考えた。その考えを基に性別にとらわれず自分や他者の好みが「個性」として大切なものであることを確かめた。授業のはじめに「認め合う」という約束をクラスで確認し、友だち同士で意見交換をした。児童たちは「スーツだから男の人じゃない？」や「女の子でも野球が好きな人もいるよ」などの意見を交換し合い、「男らしくない・女らしくない」という判断は自分も他者も傷つけてしまう恐れのある考えであることを児童たちは知った。最後の振り返りシートでは、「男でもピンクが好きならピンクが好きでいいんだ」や「わたしはわたしで良いのだと思った」などとふり返りを持っていた。</p>	<p>授業者は人権担当の教職員。 「人権ワークシート集」57頁以降にある指導案を参考にした。</p>

42	県央	小1	その他	子どもの人権 「みんながえがおになるために」	すべての人が「生きていたい」「自由でいたい」「幸せでいたい」という思いをもつことができることを確かめた。特に「自由でいたい」という思いを誰もがもつことができることを踏まえたうえで、友だちのことを不本意に傷つけてしまう言動をテーマとした動画を視聴した。「自由ならば何を言っても良かったのか?」ということ、クラスの友だちと話し合った。話し合いを通して、「自由であっても、相手の気持ちを考えることが大切」ということを児童たちは考えていた。	授業者は人権担当の教職員。 「人権ワークシート集」5頁以降にある指導案を参考にした。
43	県央	小複合	その他	車いすに乗っているいろんな所へ行ってみよう	いつも通っている通学路を車椅子に乗ったらどうなるだろう、どのように見方が変わるだろうか。実際に車椅子に乗り介助したりし、体験することで学びにつなげることができた。地区の住民センターのスロープで自走してみても坂の大変さを感じたり、いつも使っている信号機の足元の縁石にぶつかってなかなか車いすが動かさなかったりと様々な体験をすることができた。自動販売機では、ボタンが押せず苦労していた。とても良い体験となった。	清川村社会福祉協議会の職員の方
44	中	小複合	その他	食育「バランスよく食べて、元気な体をつくろう」	給食委員会が作成した動画を視聴後、好き嫌いをすると体にどのような影響があるのかを考えた。その後、ある日の残量を見て、残すことや残量の多い野菜や魚、牛乳を中心にして食品の栄養やバランスよく食べることの大切さを確認した。この学習を通して「苦手なものも一口は食べたい」という自分の目当てをもった児童や「魚がいっぱい残っていたら魚の命を無駄にしてしまう」と自分たちは他の命をいただいて生きていると実感した児童もいた。またこの学習の後、本校の給食の残量は減少してきた。	1～6年 学校保健安全委員会の中で行った (参考資料)本校の給食の残量調査 残飯の写真
45	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者の校内侵入など、緊急時に備え、安全を確保する訓練を行う。的確な指示と迅速な避難を心がけ、自分のいのちは自分で守れるように体制を確立をする。	
46	中	小4	その他	畑仕事を通して	対象となる児童は1年前、乱暴な言動が目立ち、花壇の花を踏み荒らすこともあった。この児童に対し野菜や花を育てることを年間通して行ってきた。畑づくりの段階で、落ち葉を拾い集め腐葉土を作ったのだが、それを感謝されることで自己肯定感も高まったと思う。できた野菜は喜んで家に持ち帰ったが、一番愛情をもって世話したのは瓢箪である。現在はこの瓢箪を美術品として加工している最中であり、大根・パンジーの世話もしている。これらの活動を通し、命に対しての愛おしさの気持ちをもてるようになった。	・生きる力予算で購入してもらった種、苗。 ・時期が終わり、空いている各学年配当の畑。 ・(肥料としての)無料で手に入る馬糞。
47	中	小2	その他	先生の赤ちゃんはいつ生まれる?	妊娠中の担任のおなかの中の赤ちゃんについて学び、感じることをテーマにパネルで胎児の成長の様子を伝えた。生まれるときの通り道はうんちやおしっこは違う道がお母さんにはあることを確認した。絵本「おへそのあな」を読み聞かせし、「赤ちゃんは全部見えているし、聞いているし、分かっているから、赤ちゃんとたくさんお話ししよう」と伝えた。最後に感想を授業者と担任(妊婦)でそれぞれ児童にきいたところ、「みんな仲良く」というワードが共通して伝わってきた。授業後、今まで以上に胎児に話しかける児童が増えた。	養護教諭

48	中	小4	その他	大人になる私たち	卵子の大きさから10歳の君たち、そして大人の先生へ成長を実感する流れのスタートでは、卵子の大きさを黒い画用紙の針孔で見せると、どよめきが起こった。いらいらしたり、けんかが多くなったりするかもしれないが、それは性ホルモンのせいだから、成長してる証拠。これから命をつなぐための月経や精通が起きることを伝えた。教室にいる男性教諭女性教諭に経験を聞くことができた。絵本「いのちのまつり」を読み聞かせし、私たちの命のつながりにあらためて感謝し、自分の心と体を大切にすることを伝えた。	養護教諭
49	中	小6	その他	人権移動教室「愛と正義に生きる-国境なき医師団-」	講師ご自身の体験談を交えた「国境なき医師団」の活動と人権について、DVDと講話を通して学んだ。80億人がいたとすると、80億通りの考えがあることや、人は1人で生きていくのではないこと、人生に意味を持って生きることの尊さを感じとることができた。また、自分のそばの人に目を向け、小さな心配りをすることから人権に向けての取り組みが始まることを教えていただいた。	講師：国連NGO 横浜国際人権センター 会長 資料：DVD「愛と正義に生きる-国境なき医師団-」
50	中	小複合	その他	防災「自分の身を守る」地震・大雨	地震の時の身の守り方を学習した。イラストを見て視覚的に把握した後、実際に一次避難の訓練を行った。最も重要な部分は、頭であるという認識をしている高学年が数人いた。低学年の児童も共に学ぶことができた。	絵本・クロームブックで表示
51	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者が校内に侵入したことを想定し、児童の安全を守るための教員と児童の行動を、学校全体で確認・練習した。事前に、実際にあった大阪の事件とやまゆり事件の資料を全教員が改めて共有した上で、各学級で児童に命の大切さや尊重されるべきものという話をした。児童は、自分、他者、どの命も皆一つだけのものであり守られるべきものであるということを、事前学習や訓練から学んでいた。皆真剣に訓練に取り組み、不審者が侵入してきたときの行動の仕方を確認できた。	・大阪教育大学附属池田小学校事件に関して http://osakakyoiku.ac.jp/safety/fuzoku/ikd/goui/jikengaiyo.html より抜粋 ・やまゆり事件について
52	中	小1	その他	わたしの体～体をきれいに～	「男女の体の違いに気づき、性器はいのちの誕生に関係する大切な器官であることを知るとともに、プライベートゾーンの約束を理解し、自他の体を大切にすることに意欲をもつ」ことをねらいとして学習を行った。 自分の体に関心をもつため、体の様々な部位のイラストを見ながら各部位の働きを考える導入を行った。その後、具体的なイラストを用いて、男女の体の違いとして赤ちゃんのもとをつくる役割があるところ（性器）が違うことをおさえ、プライベートゾーンの約束について学習を進めた。 最後に、プライベートゾーンだけでなく、体は全部大切であることをおさえ、振り返りを行った。子どもたちは「体のことがわかった。」「自分だけの大切なところがわかった。」等、体に関心をもち考えることができていた。	養護教諭による授業
53	中	小2	その他	おへそのひみつ～いのちのつながり～	お母さんと赤ちゃんを繋ぐへその緒について学習した。赤ちゃんはおなかの中で、へその緒を通して空気や栄養をもらい、また、いらなくなったものはへその緒を通してお母さんの体に送られることを知ることができた。また、赤ちゃんが誕生するまでに、家族の愛情や保護があったことに気づき、自他のいのちを大切にしようとする気持ちを持つことができた。	養護教諭がT1・担任がT2として指導

54	県西	小複合	その他	避難訓練（災害から命を守る）	<p>本校の学区は相模湾・酒匂川・山王川に囲まれた地域にある。そのため、地震や津波に対応していくことは重要な課題である。</p> <p>地震発生後1分以内に大津波が来る想定のため、地震発生とともにヘルメットなどで頭部を守りながら高所避難をする方法をとっているが、場合によってはシェイクアウトが必要になってくることもある。9月にシェイクアウト訓練を行った。訓練前の朝会では、自分の身を守り方についての事前指導を行った。年間通じて行った避難訓練の校長講話の中では、能登半島地震など、様々な災害と関連させながら命の大切さについて指導を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長、防災担当、担任など ・教材として震災や身の守り方のスライドを使用した。
55	県西	小複合	その他	作って食べよう	<p>生活単元で、サツマイモを苗から育てる学習を行った。毎日の水やりなど、日々の世話を継続することで枯れることなく育ち、収穫することができた。収穫の後は、親子でスイートポテトの調理をするなど、実際に作って食べることで、食べ物を育てて食べる楽しさを実感できた。また、残った芋をお世話になっている先生方にプレゼントし、最後の一つまで大切にできた。サツマイモのつるで、クリスマスリースを作成し、食べないつるの再利用も行った。</p>	
56	県西	小複合	その他	「いのちの授業」	<p>命がどのように子宮で育まれてきたか、どのようにして生まれたのか、どんなに可愛く、愛されて生まれてきたのか。自分は愛されている存在だと実感することで、自己肯定感を育むことをねらいとした講話。映像や、人形等を使ってどのように育ったのか、どのように生まれたのかなどをわかりやすく説明していただいた。児童は命の神秘や大切さ、自分がうまれて来たときにたくさんの人が喜んだことなどを感じ取っていた。</p>	<p>講師は「いのちの語り部・作家」青木千景さん 小4 小5</p>
57	県西	小6	その他	思春期に向かう心の成長	<p>体の距離間、心の距離感について考え、自他の距離感が違うことを認識する。対等な人間関係構築のために、大切なことについて考えた話し合いをした。同調圧力ではなく、助け合いを行える集団になるために大切なことを話し合った。</p>	<p>SSWと連携し、ゲストティーチャーという形で授業をしてもらった。</p>